

帯広市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

帯広市は北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置し、面積619.34平方キロメートル、人口は約16万2千人の農業を主要産業とする十勝地方の中心都市である。
市内の公共交通機関は、市街地においては、十勝バス株式会社及び北海道拓殖バス株式会社が路線バスを運行するほか、農村部においては、大正交通有限会社及び毎日交通株式会社が予約式デマンド型交通である大正地区乗合タクシー・川西地区乗合バスを運行しており、定時定路線の路線バスが存在しない農村部において、市街地と農村部を安心・安全に結ぶ移動手段として、生活に欠かせない交通機関となっている。しかし、広大な運行区域をカバーするため経費が営業収益を大きく上回る状況にあることから、地域住民の買物や通院などの日常生活の移動確保や地域間幹線系統等との接続による広域的な移動支援などを図るため、帯広市内における生活交通手段を維持・確保しつつ、収支改善に向けた利用者増加の取組みを進めながら、住民の生活の足としての公共交通を維持していく必要がある。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ①帯広市街地便の年間利用者数 令和5年度 1,808人(1便あたり2.4人)
- ②大正地区内巡回便の年間利用者数 令和5年度 374人(1便あたり1.0人)
- ③八千代線の年間利用者数 令和5年度 3,826人(1便あたり3.0人)
- ④戸蔦線の年間利用者数 令和5年度 4,217人(1便あたり3.6人)

令和5年度事業概要

- 帯広市街地便 運行区域:大正地区～愛国町～帯広厚生病院
運賃:400～1,000円、平日(月～金)運行 1日7便
実績運行回数:863回
- 大正地区内巡回便 運行区域:大正地区
運賃:500円 平日(月～金)、土曜運行 1日5便
実績運行回数:369回

- 八千代線 運行区域:八千代地区～川西市街～帯広厚生病院
運賃:300～1,000円、平日(月～金)運行 1日7便
実績運行回数:1,256回
- 戸蔦線 運行区域:戸蔦地区～川西市街～帯広厚生病院
運賃:300～1,000円、平日(月～金)運行 1日7便
実績運行回数:1,187回

地域公共交通の現況

- ・JR根室本線(帯広駅、柏林台駅、西帯広駅)
- ・路線バス
十勝バス(株)、北海道拓殖バス(株)市内45系統
- ・農村部デマンド交通
大正交通(有)、毎日交通(株)市内4系統
- ・大空地区デマンド交通※実証運行
十勝バス(株)市内1系統

協議会開催状況

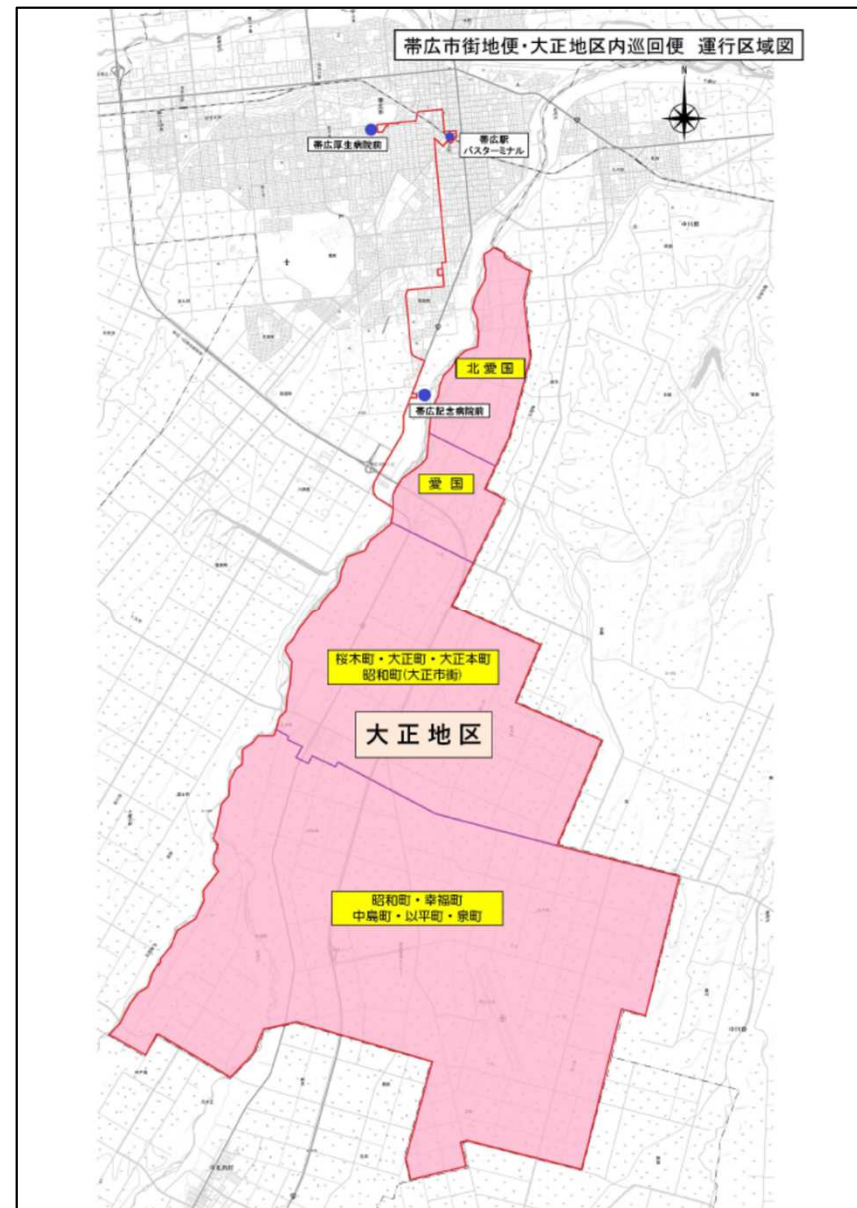
- 【令和5年6月28日 令和5年度第1回会議】
・帯広市地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- 【令和5年7月31日 令和5年度第2回会議】
・帯広市内運行路線の一部路線廃止を伴う運行計画変更について
- 【令和5年9月22日 令和5年度第3回会議】
・大空地区乗合タクシー「おおぞライナー」の運行計画変更について
・川西地区乗合バス「あいのりバス」の運行計画変更について
- 【令和6年1月18日 令和5年度第4回会議】
・地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)の事業評価について

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・利用登録者への登録証・時刻表収納ポーチの配布
- ・帯広市及び運行事業者ホームページでの周知
- ・インターネット予約受付の実施
- ・地域の会合での利用方法等の周知

2) 運行系統

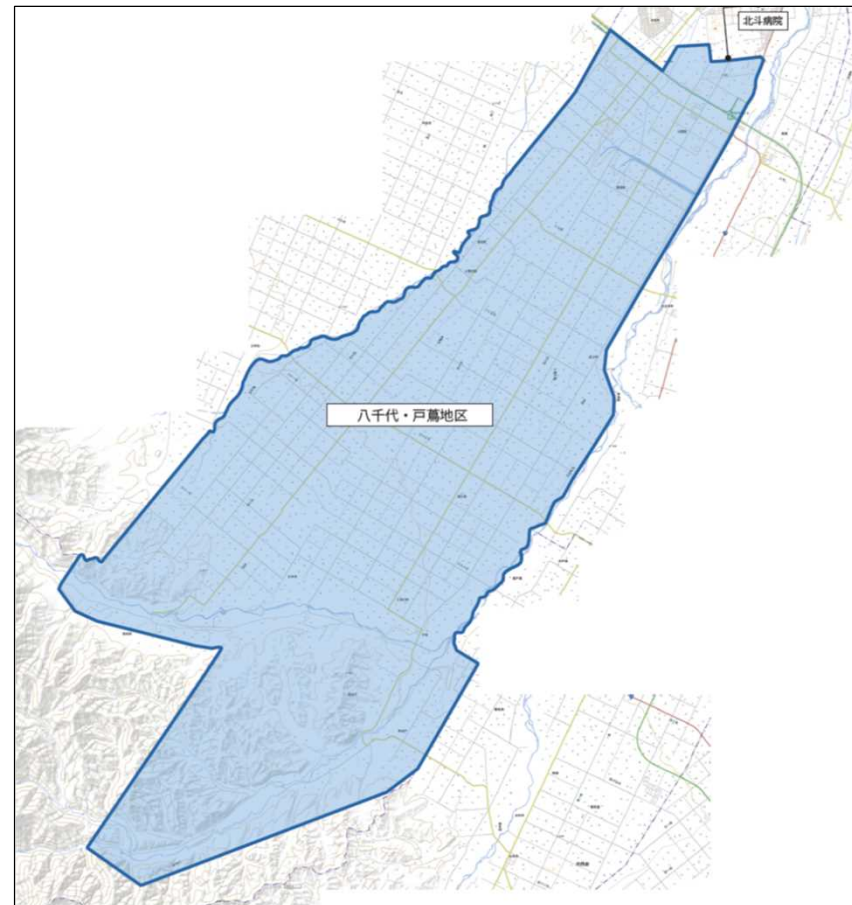
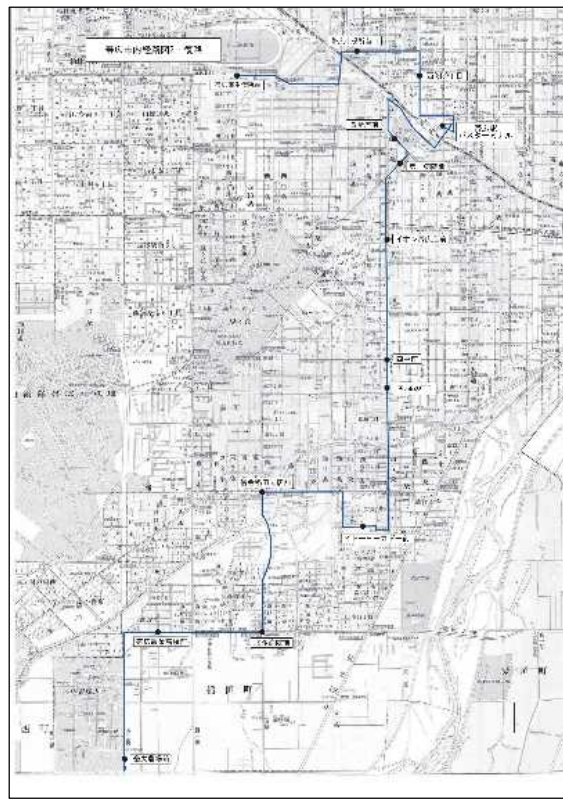
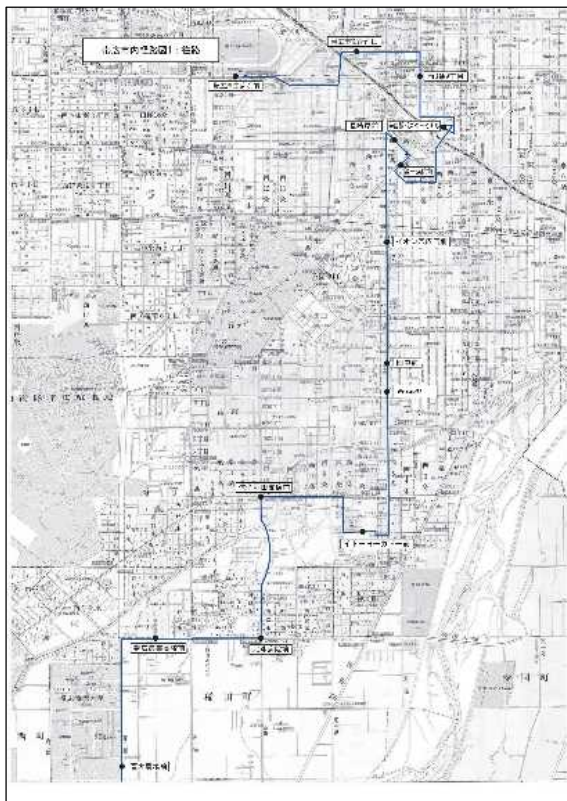


令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

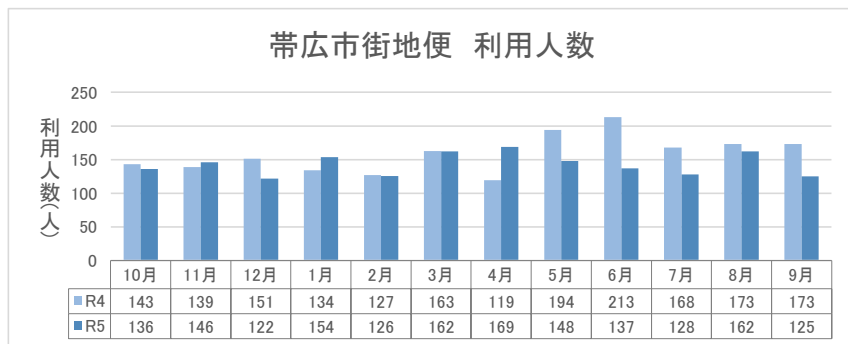
- ・地域の中学校との連携による利用者登録・予約にかかる負担軽減(学校を通じた予約)
- ・帯広市及び運行事業者ホームページでの周知
- ・インターネット予約受付の実施

2) 運行系統



3) 利用実績

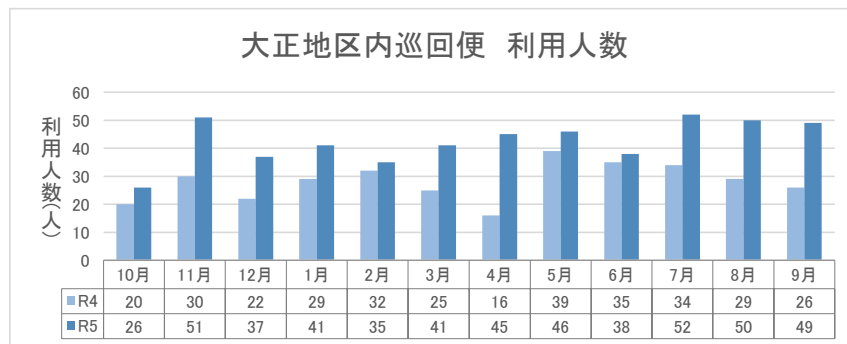
●帯広市街地便



・R4(R3.10~R4.9) : 1,897人

・R5(R4.10~R5.9) : 1,715人

●大正地区内巡回便

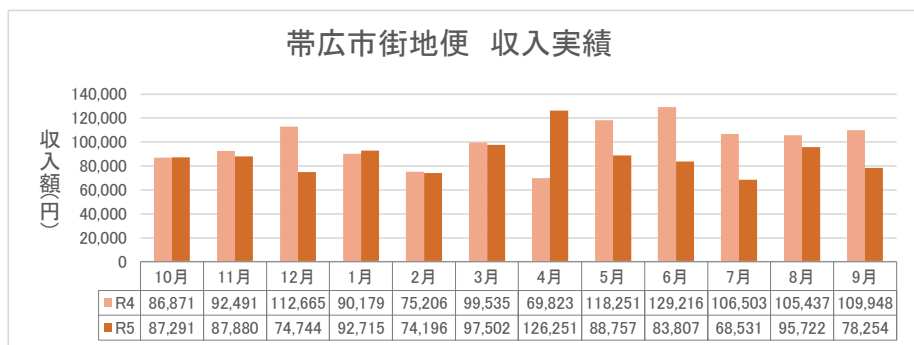


・R4(R3.10~R4.9) : 337人

・R5(R4.10~R5.9) : 511人

4) 収入実績

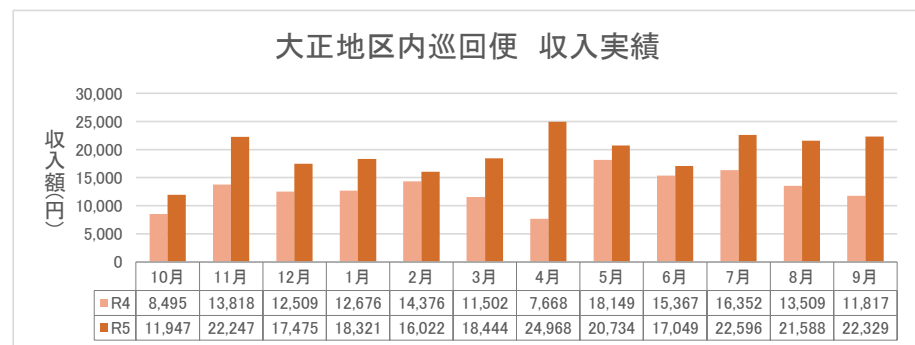
●帯広市街地便



・R4(R3.10~R4.9) : 1,196,125円

・R5(R4.10~R5.9) : 1,055,650円

●大正地区内巡回便

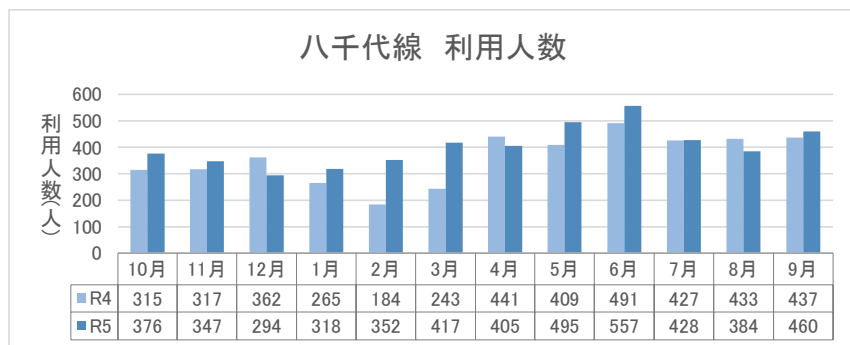


・R4(R3.10~R4.9) : 156,238円

・R5(R4.10~R5.9) : 233,720円

3) 利用実績

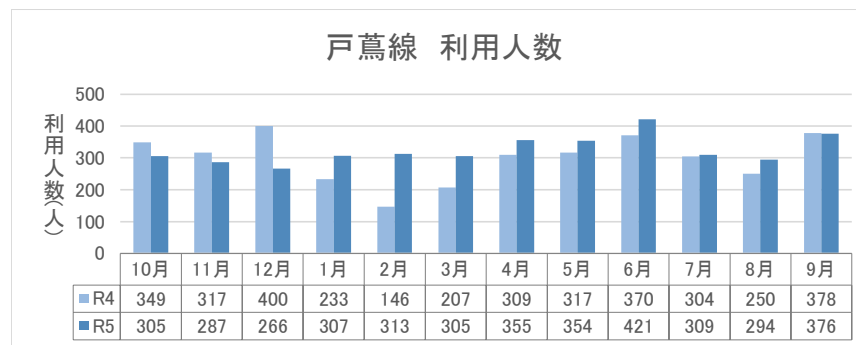
●八千代線



・R4(R3.10~R4.9) : 4,324人

・R5(R4.10~R5.9) : 4,833人

●戸蔦線

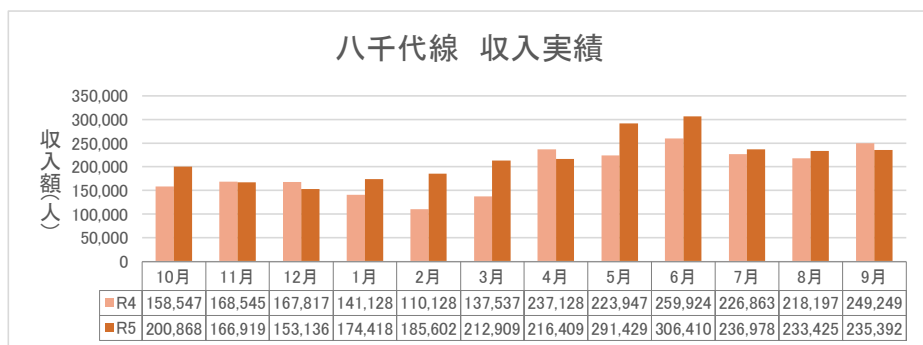


・R4(R3.10~R4.9) : 3,580人

・R5(R4.10~R5.9) : 3,892人

4) 収入実績

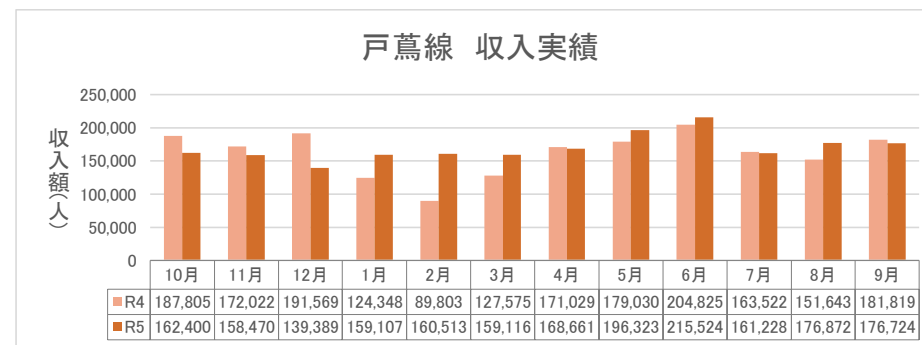
●八千代線



・R4(R3.10~R4.9) : 2,299,010円

・R5(R4.10~R5.9) : 2,613,895円

●戸蔦線



・R4(R3.10~R4.9) : 1,944,990円

・R5(R4.10~R5.9) : 2,034,327円

5) 事業実施の適切性

帯広市街地便、大正地区内巡回便、八千代線、戸蔦線
ともに計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

【帯広市街地便】

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したが、市街地の百貨店が閉店し催事が減少するなど、市街地への外出機会が減少したことにより、年間利用者数は目標1,808人(1便あたり2.4人)に対し1,715人(1便あたり1.9人)であった。

【大正地区内巡回便】

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、地区内の美容院や友人宅への移動、ゲートボールや集会への参加等を目的とする利用が回復したことにより、年間利用者数は目標374人(1便あたり1.0人)に対し511人(1便あたり1.3人)であった。

【八千代線】

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、主な利用者である高齢者の外出控え(通院等の自粛など)が継続していたものの、高校通学での定期的な利用が増加したほか、利用者の半数近くを占める中学生の八千代線への振り分けが多かったことにより、年間利用者数は目標3,826人(1便あたり3.0人)に対し4,833人(1便あたり3.8人)であった。

【戸蔦線】

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、主な利用者である高齢者の外出控え(通院等の自粛など)が継続していることに加え、利用者の半数近くを占める中学生の八千代線への振り分けが多かったことにより、昨年度よりも利用は伸びたものの、年間利用者数は目標4,217人(1便あたり3.6人)に対し3,892人(1便あたり3.2人)であった。

7) 事業の今後の改善点

【帯広市街地便・大正地区内巡回便・八千代線・戸蔦線】

地域で開催される会合などにおいて、参加者とのコミュニケーションを通じたニーズの把握や利用促進を図るなど、利用者増加に向けた取り組みを継続して実施する。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)